

高安詰所だより

第9号

立教185年

9月20日



「人のため尽くす喜び」

お盆の最中に、修養科生数名がコロナに感染し、勤務者家族も別ルートから感染した。この時、「こどもひのきしん」やクラブの合宿等で団体予約が多数あり、即座に先方に事情を説明し、他の詰所を斡旋したり、破棄願うなどの対応を取らざるを得なかったが、文字通りのドタキャンにも拘わらず、クレイムどころか温かい励ましまで頂き、お陰で何とか感染の拡大を押さえることができた。

「ロックアウト」は五日に及んだが、その間、隔離された感染者や濃厚接触者へは、感染を免れた修養科生が調膳や配食にあたってくれた。食数が多く大変だったが、文句も言わずいそいそと立ち働いてくれた。ほんの少し前までは会ったこともない人のために、家族のように親身になって世話取りにあたる修養科生の姿に、あらためて修養科の素晴らしさを感じた。今年、少年ひのきしん隊が「創設五十周年」を迎え、丁度「ロックアウト」の最中に、ひのきしん隊の歌が連日流れてきたが、「人のため尽くす喜び広げよう」という歌詞がやけに心に染み込んだ。



詰所行事予定(十月)

二日 おちば伏せ込みひのきしん

四日 詰所常会

八日 にいがけ実動

十一日 勤務者修練I

十三日 おつとめ勉強会

十七日 直轄祭参拝(大教会)

二十日 勤務者修練II

二十三日 大教会秋季大祭参拝

二十五日 月例朝礼

二十六日 本部秋季大祭参拝者受入れ

詰所の動き

おさづけの理拝戴

去る八月十七日、修養科第九七二期生の中山智也さん(十九

才 都南・城一船)がおさづけの理を拝戴されました。



よふぼくとしての今後の活躍が大いに楽しみです。

修養科「第九七二期」門出式

修養科第九七二期生、

高安男子九名、女子九

名、計十八名が修了さ

れ、大教会にて門出式

が行われました。皆さ

ん三ヶ月の修練の成果

を遺憾なく発揮、立派

につとめられました。

修了生の一人、西海湧

起さん(二十三才 都

南・愛金)は今期修養

科の教養掛助手として



つとめて下さっています。また石原凌さん（二十三才 都南・南浦）も、十月一日から一年間、境内掛にて勤務されおちばで伏せ込まれることとなっています。尚、修了にあたり、三ヶ月間お世話になった詰所に、修養科生一同よりお礼の気持ちを込めて左記の記念品が贈呈されました。心のこもった品々、ありがとうございます。長く大切に使用させていただきます。

贈呈品 〔体温計6個 消毒液 清掃用具 他〕

修養科「第九七五期」生

新たに修養科第九七五期には、高安から男子五名、女子八名の十三名が九月一日入科されました。今期は身上や事情を抱えて



入科された方も多く、この三ヶ月の修養科を通して、教えを学び、おちばにしつかりと伏せ込んで頂き、ご守護頂かれますことを願ってやみません。尚、次の先生方が九七五期修養科生のお世話取りに当たって下さっています。

男子教養掛



高橋真一郎先生
(河北 井高野)

女子教養掛



北野眞理先生
(長野)

教養掛助手



西海湧起さん
(都南 愛金)

お礼団参

十一月二十七日

編集後記

来る十一月二十七日、「教祖お入り込み百四十周年」を無事つとめさせて頂いたお礼の団参が行われます。記念期間中の団参は各教会単位でしたが、今回の十一月団参は大教会統一行事で、「教祖百四十年祭」三年千日の年祭活動祈願も込められた団参です。当日は午前、午后の別席は云うに及ばず、東礼拝場に於いて揃ってのお礼参拝、更に今日まで道の上で御苦勞下さり、道の礎となつて下さいました先人先輩方の御霊様にお喜び頂きたいと、今回は豊田墓地の除草ひのきしんをさせて頂く運びとなっています。またこの日は本部で「女子青年大会」も開催されますので、老若男女を問わず挙つてお礼団参にお帰り下さい。

◎ お礼のおつとめ 午前十一時半

於 東礼拝場

◎ 除草ひのきしん

午後十二時半～二時

於 豊田墓地

コロナ禍が慢性化し、ウクライナ情勢の影響で世界経済も麻痺し、世の中は大変なことになっているが、もつと恐いのは慣れた。ミサイルで破壊された住宅や学校の映像も、当初は戦慄が走つたが、毎日茶の間に流されてくると、そんな映像を見ても何とも思わなくなっている。また「ウイズコロナ」の名の下、ウイルスと共存するしかないような世の流れになっている。徒に危機感を煽るつもりはないが、人を死に至らしめるウイルスやミサイルとは共存できるものではない。平和世界にコロナもミサイルもあつてはならない。だからこそ今、私達よふぼくは「陽気ぐらし」世界の実現に向かつての歩みを急がねばならない。

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地一